

# 令和5年度学校保健統計調査の結果

(学校保健統計調査の結果確報)

—鹿児島県分集計—

令和6年11月

鹿児島県総合政策部統計課



# 利用上の注意

## 1 調査の期日等

令和5年4月1日から令和6年3月31日までの間に実施された学校保健安全法による健康診断の結果について調査したものである。

## 2 調査の範囲・対象

- 調査の範囲は、幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校のうち、文部科学大臣があらかじめ指定する学校(以下「調査実施校」という。)

幼稚園には幼保連携型認定こども園を、小学校には義務教育学校(第1～6学年)を、中学校には義務教育学校(第7～9学年)及び中等教育学校の前期課程を、高等学校には中等教育学校の後期課程をそれぞれ含む(以下同じ)。

- 調査の対象は、調査実施校に在籍する、満5歳から17歳(令和5年4月1日現在)までの幼児、児童及び生徒である。

発育状態調査は、調査実施校に在籍する幼児、児童及び生徒のうちから年齢別男女別に抽出される者を対象とし、健康状態調査は、調査実施校の当該年齢の全員を対象としている。

- 本県における調査実施校数、調査対象者数及び抽出率は次のとおりである。

区分	調査実施校数 (校)	発育状態調査対象者数 人	健康状態調査対象者数 人
幼稚園	36	999	1,245
小学校	61	5,439	29,869
中学校	40	4,274	18,288
高等学校	29	2,541	22,047
計	166	13,253	71,449
		鹿児島県内の幼児・児童及び生徒総数の7.3%	鹿児島県内の幼児・児童及び生徒総数の39.3%

参考：令和5年度幼児、児童及び生徒の数(令和5年度学校基本統計(学校基本調査結果の概要)より)

幼稚園・幼保連携型認定こども園(5歳児):8,328人 小学校全児童数:85,954人 中学校全生徒数:45,323人

義務教育学校全児童生徒数:1,394人 高等学校全生徒数:40,865人

:高等学校の生徒数には「通信制課程」を含んでいない。

## 3 数値の取り扱い

- 鹿児島県分を取りまとめた数値については、調査対象者数が少ない(全数調査ではない)ため、誤差が大きくなる可能性があるため、利用に当たっては注意が必要である。

- 計欄の数値と内訳の合計の数値とは、四捨五入しているため、一致しない場合がある。

- 統計表の中の記号は下記のように使う。

「—」 ----- 計数がない場合

「0.00」 ----- 計数が単位未満の場合

「…」 ----- 調査対象とならなかった場合

「X」 ----- 標本サイズが小さい、又は標準誤差が大きいため統計数値を公表しない場合

## 4 その他

- 令和4年度調査から速報は確報に一本化している。

- 令和3年度から令和5年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により、例年6月末までに実施される健康診断等が年度末までに期限が延長されたことから、公表が通常(調査年の翌年2月)と異なっており、令和5年度は令和6年11月に公表されている。

- 全国分集計結果については、文部科学省のホームページに掲載されている。

([https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa05/hoken/1268826.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa05/hoken/1268826.htm))



# 調査結果の概要

(鹿児島県)

## I 発育状態調査

### 1 身長・体重の本県平均値

令和5年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の身長、体重の本県平均値を年齢別にみると表1のとおりである。

- (1) 身長 男子の身長は、7歳、8歳、10歳～17歳で前年度を上回っている。  
女子の身長は、6歳、8歳、10歳、15歳、16歳で前年度を上回っている。  
なお、9歳～11歳で女子は男子を上回っている。
- (2) 体重 男子の体重は、8歳、9歳、11歳～14歳、16歳、17歳で前年度を上回っている。  
女子の体重は、6歳、8歳～10歳、16歳で前年度を上回っている。  
なお、10歳で女子は男子を上回っている。

表1 年齢別 身長・体重の平均値

区 分			身 長(cm)			体 重(kg)		
			令和4年度	令和5年度	差	令和4年度	令和5年度	差
男 子	幼稚園	5歳	111.2	110.7	△ 0.5	19.7	19.1	△ 0.6
		小学校	6歳	116.8	116.1	△ 0.7	22.0	21.4
	7歳		122.0	<u>122.3</u>	0.3	24.3	24.2	△ 0.1
	8歳		127.3	<u>127.7</u>	0.4	27.1	<u>27.4</u>	0.3
	9歳		133.4	132.8	△ 0.6	31.1	<u>31.3</u>	0.2
	10歳		138.8	<u>139.1</u>	0.3	35.1	34.5	△ 0.6
	11歳		145.0	<u>145.8</u>	0.8	39.3	<u>39.9</u>	0.6
	中学校	12歳	152.8	<u>154.2</u>	1.4	44.6	<u>46.2</u>	1.6
		13歳	160.0	<u>160.5</u>	0.5	49.8	<u>50.1</u>	0.3
		14歳	165.2	<u>165.3</u>	0.1	54.5	<u>55.2</u>	0.7
	高等学校	15歳	168.1	<u>168.3</u>	0.2	59.7	58.5	△ 1.2
		16歳	169.6	<u>169.8</u>	0.2	60.1	<u>61.2</u>	1.1
		17歳	169.6	<u>170.3</u>	0.7	61.9	<u>62.7</u>	0.8

区 分			身 長(cm)			体 重(kg)		
			令和4年度	令和5年度	差	令和4年度	令和5年度	差
女 子	幼稚園	5歳	109.8	109.6	△ 0.2	19.1	18.8	△ 0.3
		小学校	6歳	115.2	<u>115.5</u>	0.3	21.0	<u>21.2</u>
	7歳		121.2	121.2	0.0	23.9	23.7	△ 0.2
	8歳		127.3	<u>127.4</u>	0.1	27.0	<u>27.2</u>	0.2
	9歳		134.1	133.6	△ 0.5	30.4	<u>30.7</u>	0.3
	10歳		140.2	<u>140.6</u>	0.4	34.2	<u>34.7</u>	0.5
	11歳		147.1	146.9	△ 0.2	39.7	39.5	△ 0.2
	中学校	12歳	152.0	152.0	0.0	45.1	44.0	△ 1.1
		13歳	154.5	154.3	△ 0.2	47.5	47.4	△ 0.1
		14歳	156.1	156.1	0.0	50.2	50.0	△ 0.2
	高等学校	15歳	156.6	<u>156.9</u>	0.3	51.5	51.4	△ 0.1
		16歳	157.1	<u>157.2</u>	0.1	51.6	<u>53.1</u>	1.5
		17歳	157.7	157.7	0.0	53.0	52.9	△ 0.1

(注)太字下線付部分は、前年度(令和4年度)数値を上回ったものである。

## 2 本県平均値と全国平均値の比較

調査項目52項目(身長・体重2項目×13年齢区分×男・女)中、本県平均値が全国平均値を上回っている項目は次の9項目である。

男子		女子	
身長	体重	身長	体重
該当項目なし	12歳(+0.4kg)	該当項目なし	8歳(+0.2kg)
	14歳(+0.3kg)		14歳(+0.2kg)
	16歳(+0.8kg)		15歳(+0.2kg)
	17歳(+0.7kg)		16歳(+0.9kg)
			17歳(+0.3kg)

表2 発育状態平均値の比較(全国・鹿児島県)

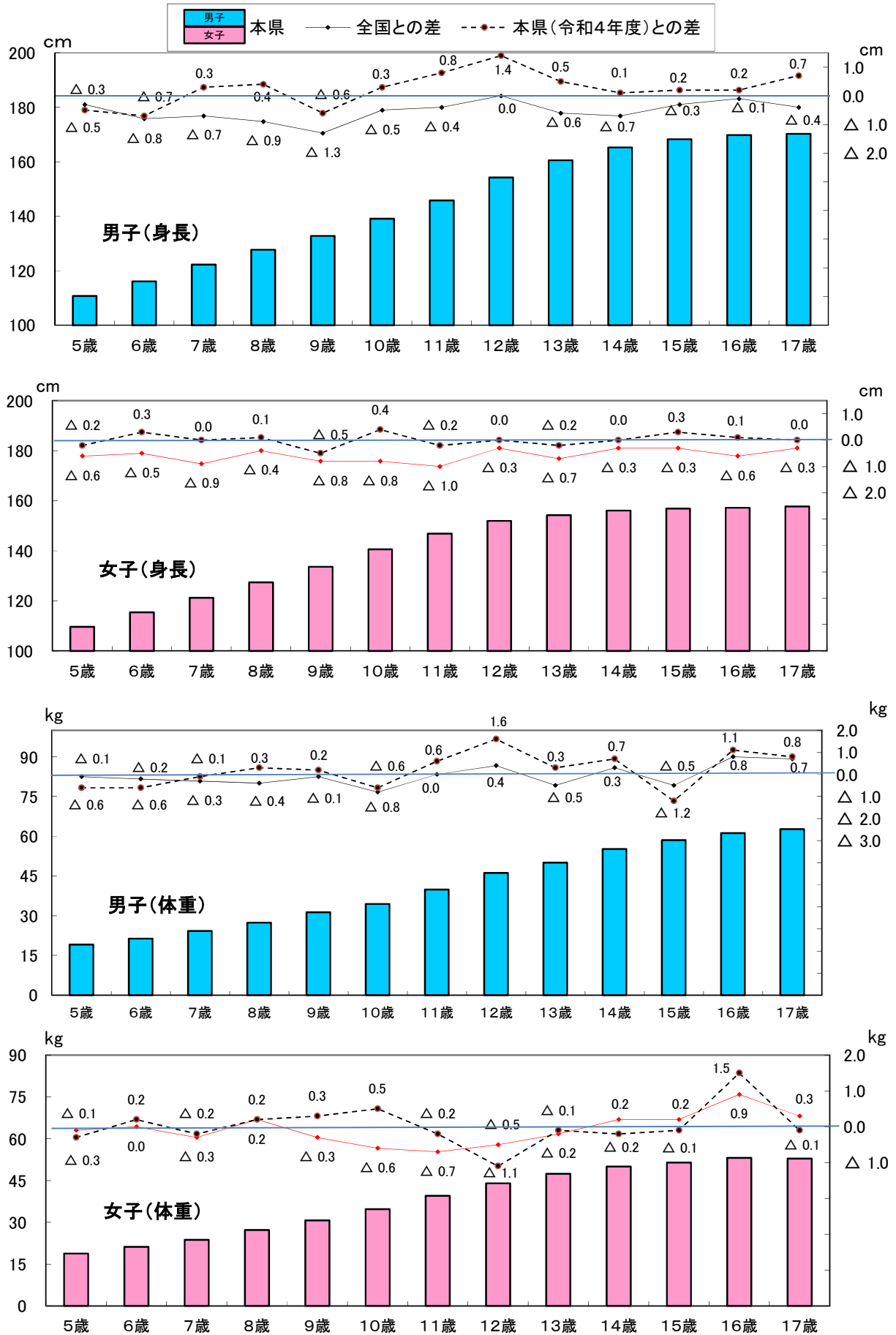
区 分		身 長(cm)			体 重(kg)			
		本県	全国	差	本県	全国	差	
男 子	幼稚園	5歳	110.7	111.0	△ 0.3	19.1	19.2	△ 0.1
	小学校	6歳	116.1	116.9	△ 0.8	21.4	21.6	△ 0.2
		7歳	122.3	123.0	△ 0.7	24.2	24.5	△ 0.3
		8歳	127.7	128.6	△ 0.9	27.4	27.8	△ 0.4
		9歳	132.8	134.1	△ 1.3	31.3	31.4	△ 0.1
		10歳	139.1	139.6	△ 0.5	34.5	35.3	△ 0.8
		11歳	145.8	146.2	△ 0.4	39.9	39.9	0.0
	中学校	12歳	154.2	154.2	0.0	<b>46.2</b>	45.8	<b>0.4</b>
		13歳	160.5	161.1	△ 0.6	50.1	50.6	△ 0.5
		14歳	165.3	166.0	△ 0.7	<b>55.2</b>	54.9	<b>0.3</b>
	高等学校	15歳	168.3	168.6	△ 0.3	58.5	59.0	△ 0.5
		16歳	169.8	169.9	△ 0.1	<b>61.2</b>	60.4	<b>0.8</b>
		17歳	170.3	170.7	△ 0.4	<b>62.7</b>	62.0	<b>0.7</b>

区 分		身 長(cm)			体 重(kg)			
		本県	全国	差	本県	全国	差	
女 子	幼稚園	5歳	109.6	110.2	△ 0.6	18.8	18.9	△ 0.1
	小学校	6歳	115.5	116.0	△ 0.5	21.2	21.2	0.0
		7歳	121.2	122.1	△ 0.9	23.7	24.0	△ 0.3
		8歳	127.4	127.8	△ 0.4	<b>27.2</b>	27.0	<b>0.2</b>
		9歳	133.6	134.4	△ 0.8	30.7	31.0	△ 0.3
		10歳	140.6	141.4	△ 0.8	34.7	35.3	△ 0.6
		11歳	146.9	147.9	△ 1.0	39.5	40.2	△ 0.7
	中学校	12歳	152.0	152.3	△ 0.3	44.0	44.5	△ 0.5
		13歳	154.3	155.0	△ 0.7	47.4	47.6	△ 0.2
		14歳	156.1	156.4	△ 0.3	<b>50.0</b>	49.8	<b>0.2</b>
	高等学校	15歳	156.9	157.2	△ 0.3	<b>51.4</b>	51.2	<b>0.2</b>
		16歳	157.2	157.8	△ 0.6	<b>53.1</b>	52.2	<b>0.9</b>
		17歳	157.7	158.0	△ 0.3	<b>52.9</b>	52.6	<b>0.3</b>

(注)年齢は、令和5年4月1日現在の満年齢である。

また、太字下線付部分は、全国平均値を上回ったものである。

図1 全国と鹿児島県との差



### 3 本県の身長・体重の推移(世代間の比較)

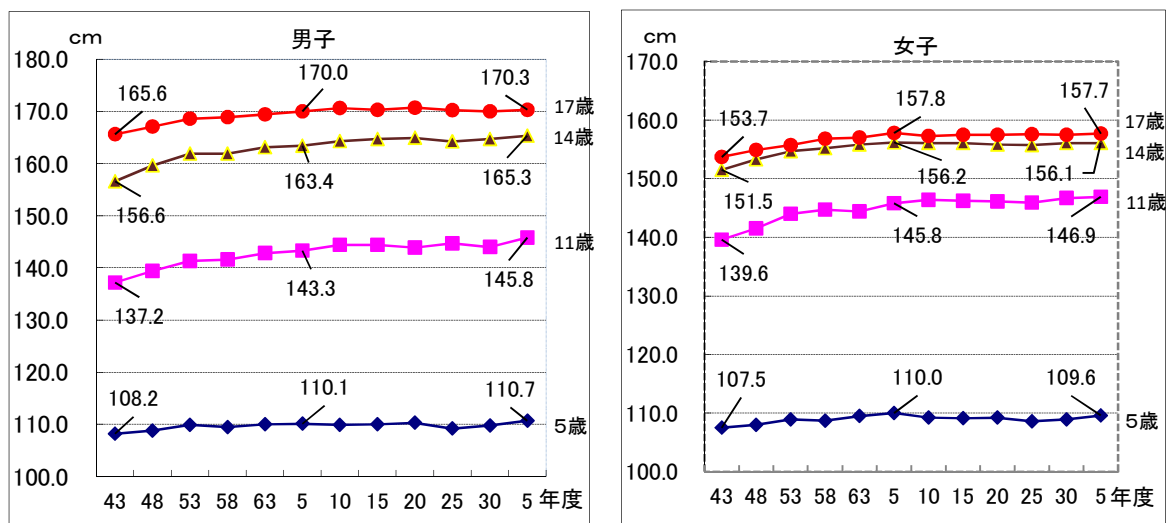
#### (1) 身長の推移

令和5年度の身長を30年前の平成5年度(親の世代)と比べると、最も差のある年齢は男子では12歳で3.7cm、女子では10歳で1.9cmそれぞれ高くなっている。

表3 年齢別 身長の平均値

区 分			身 長 (cm)				
			昭和43年度 祖父母世代(54年前) (A)	平成5年度 親の世代(30年前) (B)	令和5年度 子世代 (C)	(C)-(B)	(B)-(A)
男 子	幼稚園	5歳	108.2	110.1	110.7	0.6	1.9
		小学校	6歳	112.2	115.9	116.1	0.2
	7歳		117.5	121.9	122.3	0.4	4.4
	8歳		122.6	127.3	127.7	0.4	4.7
	9歳		127.7	133.0	132.8	△ 0.2	5.3
	10歳		132.5	138.0	139.1	1.1	5.5
	11歳		137.2	143.3	145.8	2.5	6.1
	中学校	12歳	142.9	150.5	154.2	<b>3.7</b>	7.6
		13歳	149.7	157.7	160.5	2.8	<b>8.0</b>
		14歳	156.6	163.4	165.3	1.9	6.8
	高等学校	15歳	162.4	167.7	168.3	0.6	5.3
		16歳	164.4	169.3	169.8	0.5	4.9
		17歳	165.6	170.0	170.3	0.3	4.4
女 子	幼稚園	5歳	107.5	110.0	109.6	△ 0.4	2.5
		小学校	6歳	111.3	115.0	115.5	0.5
	7歳		116.7	121.3	121.2	△ 0.1	4.6
	8歳		122.1	126.9	127.4	0.5	4.8
	9歳		127.4	132.8	133.6	0.8	5.4
	10歳		133.3	138.7	140.6	<b>1.9</b>	5.4
	11歳		139.6	145.8	146.9	1.1	<b>6.2</b>
	中学校	12歳	145.0	151.0	152.0	1.0	6.0
		13歳	149.1	154.6	154.3	△ 0.3	5.5
		14歳	151.5	156.2	156.1	△ 0.1	4.7
	高等学校	15歳	152.8	156.9	156.9	0.0	4.1
		16歳	153.6	157.5	157.2	△ 0.3	3.9
		17歳	153.7	157.8	157.7	△ 0.1	4.1

図2 年齢別・身長の平均値の推移





平成17年度生まれ(令和5年4月1日現在17歳)と30年前の昭和50年度生まれ(親の世代)の発育量を比べると、年間発育量が最大となる時期は、男子については平成17年度生まれが11歳、昭和50年度生まれも11歳となっている。

女子については、年間発育量が最大になる時期は、平成17年度生まれが8歳、昭和50年度生まれも8歳となっている。また、平成17年度生まれの最大の発育量を示す年齢は、男子に比べ3歳早くなっている。

表4 平成17年度生まれと昭和50年度生まれの者の年間発育量の比較(身長)(cm)

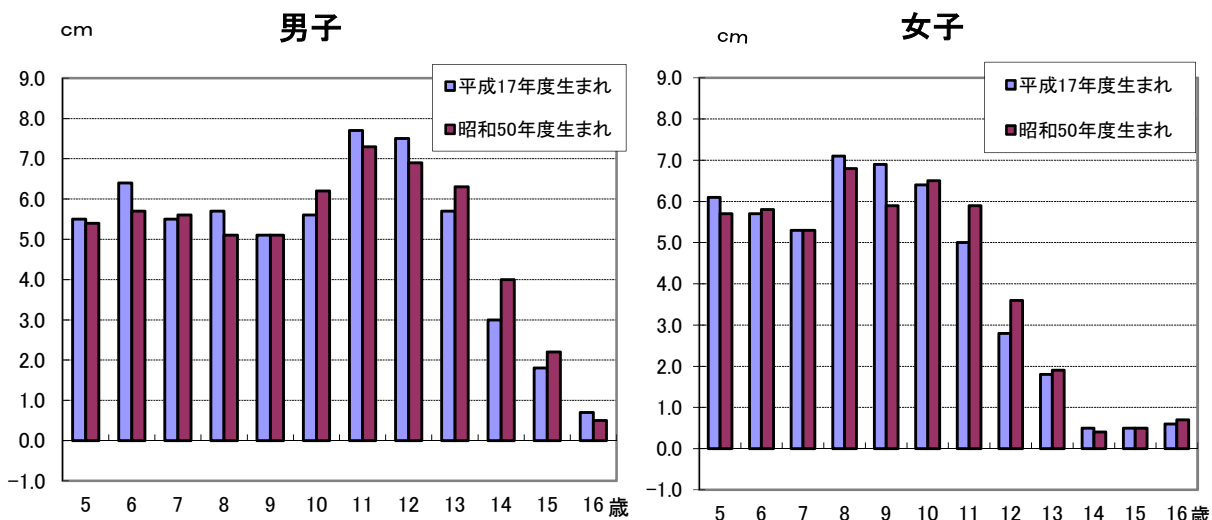
区 分	男 子		女 子		
	昭和50年度生まれ (親の世代の17歳)	平成17年度生まれ (令和5年度17歳)	昭和50年度生まれ (親の世代の17歳)	平成17年度生まれ (令和5年度17歳)	
総 発 育 量	60.3	60.2	49.0	48.7	
幼稚園 5歳時 (5歳～6歳)	5.4	5.5	5.7	6.1	
小 学 校	6歳時	5.7	6.4	5.8	5.7
	7 〃	5.6	5.5	5.3	5.3
	8 〃	5.1	5.7	<b>6.8</b>	<b>7.1</b>
	9 〃	5.1	5.1	5.9	6.9
	10 〃	6.2	5.6	6.5	6.4
	11 〃	<b>7.3</b>	<b>7.7</b>	5.9	5.0
中 学 校	12 〃	6.9	7.5	3.6	2.8
	13 〃	6.3	5.7	1.9	1.8
	14 〃	4.0	3.0	0.4	0.5
高 校	15 〃	2.2	1.8	0.5	0.5
	16 〃	0.5	0.7	0.7	0.6

(注) 太字下線付部分は、年間発育量が最大となった時期の数値である。

(注) 年間発育量とは、例えば、平成17年度生まれの者の「5歳時」の年間発育量は、平成24年度調査6歳の者の身長から平成23年度調査5歳の者の身長を引いたものである。

0歳	平成17年度生まれ
5歳	平成22年度年齢 (平成23年度調査)
6歳	平成23年度年齢 (平成24年度調査)

図3 平成17年度生まれと昭和50年度生まれの者の年間発育量の比較(身長)



※調査数が全生徒数の7.3%であることや調査対象者が毎年変わることから発育量がマイナスとなることがあります。

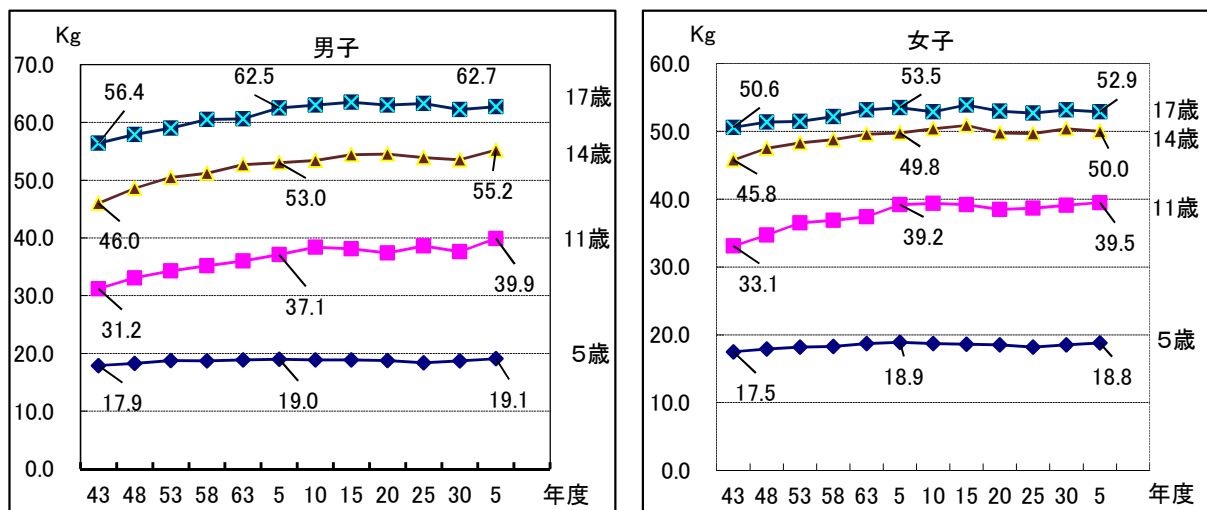
(2) 体重の推移

令和5年度の体重を30年前の平成5年度(親の世代)と比べると、最も差のある年齢は、男子では12歳で4.2kg、女子は8歳と10歳で1.1kgそれぞれ重くなっている。

表5 年齢別 体重の平均値

区 分			体 重(kg)				
			昭和43年度 祖父母世代(55年前) (A)	平成5年度 親の世代(30年前) (B)	令和5年度 子世代 (C)	(C)-(B)	(B)-(A)
男 子	幼稚園	5歳	17.9	19.0	19.1	0.1	1.1
		6歳	19.3	21.2	21.4	0.2	1.9
	小学校	7歳	21.4	24.0	24.2	0.2	2.6
		8歳	23.5	26.7	27.4	0.7	3.2
		9歳	26.0	29.9	31.3	1.4	3.9
		10歳	28.4	33.0	34.5	1.5	4.6
		11歳	31.2	37.1	39.9	2.8	5.9
	中学校	12歳	35.3	42.0	46.2	<b>4.2</b>	6.7
		13歳	40.3	47.6	50.1	2.5	<b>7.3</b>
		14歳	46.0	53.0	55.2	2.2	7.0
	高等学校	15歳	51.5	58.5	58.5	0.0	7.0
		16歳	54.3	61.6	61.2	△ 0.4	7.3
		17歳	56.4	62.5	62.7	0.2	6.1
女 子	幼稚園	5歳	17.5	18.9	18.8	△ 0.1	1.4
		6歳	18.7	20.8	21.2	0.4	2.1
	小学校	7歳	20.7	23.5	23.7	0.2	2.8
		8歳	23.1	26.1	27.2	<b>1.1</b>	3.0
		9歳	25.7	29.8	30.7	0.9	4.1
		10歳	28.9	33.6	34.7	<b>1.1</b>	4.7
		11歳	33.1	39.2	39.5	0.3	<b>6.1</b>
	中学校	12歳	37.8	43.2	44.0	0.8	5.4
		13歳	42.1	47.4	47.4	0.0	5.3
		14歳	45.8	49.8	50.0	0.2	4.0
	高等学校	15歳	48.4	52.0	51.4	△ 0.6	3.6
		16歳	50.1	53.1	53.1	0.0	3.0
		17歳	50.6	53.5	52.9	△ 0.6	2.9

図4 年齢別・体重の平均値の推移



平成17年度生まれ(令和5年4月1日現在17歳)と30年前の昭和50年度生まれ(親の世代)の発育量を比べると、年間発育量が最大となる時期は、男子については平成17年度生まれが11歳、昭和50年度生まれも11歳となっている。

女子については、年間発育量が最大になる時期は、平成17年度生まれが10歳、昭和50年度生まれは11歳となっている。また、平成17年度生まれの最大の発育量を示す年齢は、男子に比べ1歳早くなっている。

表6 平成17年度生まれと昭和50年度生まれの者の年間発育量の比較(体重)(kg)

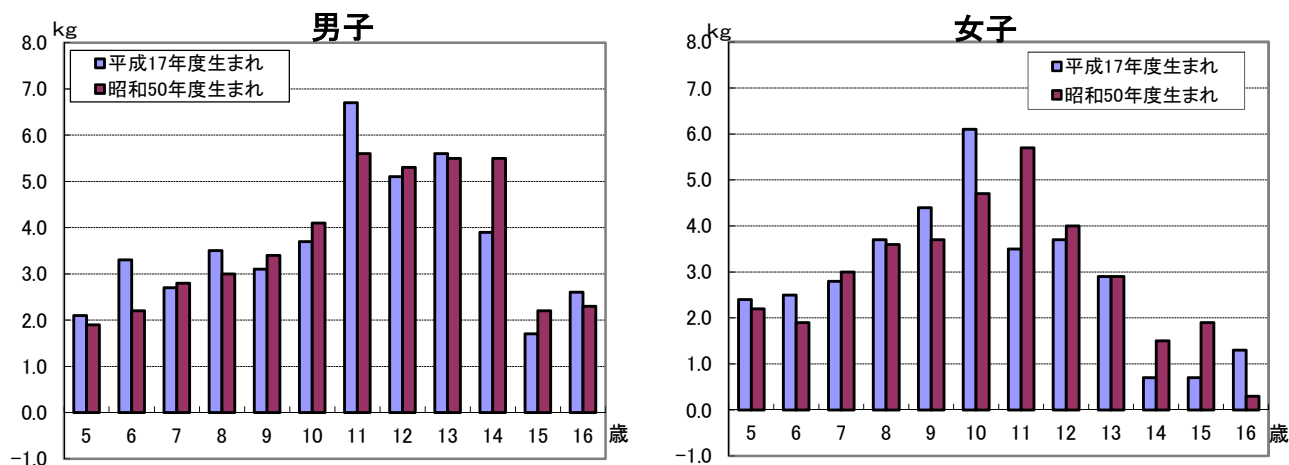
区 分	男 子		女 子		
	昭和50年度生まれ (親の世代の17歳)	平成17年度生まれ (令和5年度17歳)	昭和50年度生まれ (親の世代の17歳)	平成17年度生まれ (令和5年度17歳)	
総 発 育 量	43.8	44.0	35.4	34.7	
幼稚園 5歳時 (5歳～6歳)	1.9	2.1	2.2	2.4	
小 学 校	6歳時	2.2	3.3	1.9	2.5
	7 〃	2.8	2.7	3.0	2.8
	8 〃	3.0	3.5	3.6	3.7
	9 〃	3.4	3.1	3.7	4.4
	10 〃	4.1	3.7	4.7	<b>6.1</b>
	11 〃	<b>5.6</b>	<b>6.7</b>	<b>5.7</b>	3.5
中 学 校	12 〃	5.3	5.1	4.0	3.7
	13 〃	5.5	5.6	2.9	2.9
	14 〃	5.5	3.9	1.5	0.7
高 等 学 校	15 〃	2.2	1.7	1.9	0.7
	16 〃	2.3	2.6	0.3	1.3

(注) 太字下線付部分は、年間発育量が最大となった時期の数値である。

(注) 年間発育量とは、例えば、平成17年度生まれの者の「5歳時」の年間発育量は、平成24年度調査 6歳の者の体重から平成23年度調査 5歳の者の体重を引いたものである。

0歳	平成17年度生まれ
5歳	平成22年度年齢 (平成23年度調査)
6歳	平成23年度年齢 (平成24年度調査)

図5 平成17年度生まれと昭和50年度生まれの者の年間発育量の比較(体重)



※調査数が全生徒数の7.3%であることや調査対象者が毎年変わることから発育量がマイナスとなることがあります。

## II 健康状態調査等

### 1 疾病・異常の被患率等別状況

疾病・異常を被患率等別にみると、小学校では「むし歯(う歯)」の割合が最も高く、次いで「裸眼視力1.0未満」の順となっている。また、中学校では「裸眼視力1.0未満」の割合が最も高く、次いで「むし歯(う歯)」の順、高等学校では「むし歯(う歯)」の割合が最も高く、次いで「鼻・副鼻腔疾患」の順となっている。

表1 疾病・異常の被患率

(単位:%)

区分(%)	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
70以上~80未満				
60~70				
50~60			裸眼視力1.0未満 58.4	
40~50		むし歯(う歯) 46.0	むし歯(う歯) 42.8	むし歯(う歯) 48.7
30~40	むし歯(う歯) 32.1	裸眼視力1.0未満 34.7		
20~30				
10~20		鼻・副鼻腔疾患 19.8	鼻・副鼻腔疾患 16.3	
8~10		歯・口腔のその他の疾病・異常 9.1 耳疾患 8.5		鼻・副鼻腔疾患 9.6
6~8				
4~6		眼の疾病・異常 5.4 歯列・咬合 4.6	耳疾患 5.9 歯・口腔のその他の疾病・異常 5.6	その他の疾病・異常 5.1 蛋白検出の者 4.7 眼の疾病・異常 4.2 歯列・咬合 4.2 心電図異常 4.2
2~4	歯列・咬合 3.4 鼻・副鼻腔疾患 3.3	歯垢の状態 2.7 ぜん息 2.4 心電図異常 2.1	歯列・咬合 3.8 心電図異常 3.3 眼の疾病・異常 3.2 歯垢の状態 3.2 歯肉の状態 3.0 口腔咽喉頭疾患・異常 2.5 アトピー性皮膚炎 2.1	歯肉の状態 3.1 歯垢の状態 2.5 歯・口腔のその他の疾病・異常 2.2 アトピー性皮膚炎 2.0
1~2	眼の疾病・異常 1.5 歯・口腔のその他の疾病・異常 1.0	口腔咽喉頭疾患・異常 1.9 アトピー性皮膚炎 1.8 栄養状態 1.7 その他の疾病・異常 1.7 歯肉の状態 1.2	蛋白検出の者 1.9 その他の疾病・異常 1.5 ぜん息 1.4	耳疾患 1.2 ぜん息 1.2 心臓の疾病・異常 1.0
0.5~1	耳疾患 0.9 歯垢の状態 0.8	心臓の疾病・異常 0.8 言語障害 0.7 難聴 0.5 蛋白検出の者 0.5	心臓の疾病・異常 0.9 顎関節 0.7 栄養状態 0.6	
0.1~0.5	ぜん息 0.3 その他の疾病・異常 0.3 顎関節 0.1 胸郭の状態 0.1 アトピー性皮膚炎 0.1 蛋白検出の者 0.1 心臓の疾病・異常 0.1 その他の皮膚疾患 0.1	せき柱の状態 0.1 胸郭の状態 0.1 四肢の状態 0.1 その他の皮膚疾患 0.1 尿糖検出の者 0.1 腎臓疾患 0.1	難聴 0.2 四肢の状態 0.2 せき柱の状態 0.1 その他の皮膚疾患 0.1 尿糖検出の者 0.1 腎臓疾患 0.1	難聴 0.4 せき柱の状態 0.4 尿糖検出の者 0.4 顎関節 0.3 栄養状態 0.3 口腔咽喉頭疾患・異常 0.2 四肢の状態 0.2 その他の皮膚疾患 0.2 腎臓疾患 0.2
0.1未満	せき柱の状態 0.0	結核 0.0 顎関節 0.0	胸郭の状態 0.0 結核 0.0 言語障害 0.0	胸郭の状態 0.0 結核 0.0 言語障害 0.0
X	裸眼視力1.0未満			裸眼視力1.0未満

(注)1 「口腔咽喉頭疾患・異常」とは、アデノイド、へんとう肥大、咽頭炎、喉頭炎、へんとう炎、音声言語異常等のある者である。

2 「歯・口腔のその他の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、だ石、癒合歯、要注意乳歯等のある者である。

3 「心電図異常」とは、心電図検査の結果、異常と判定された者である。

4 「その他の皮膚疾患」とは、伝染性皮膚疾患、毛髪疾患等、アトピー性皮膚炎以外の皮膚疾患と判定された者である。

5 「その他の疾病・異常」とは、本調査のいずれの調査項目にも該当しない疾病及び異常(例えば貧血、てんかん、ダウン症、筋ジストロフィー等)である。

6 「X」は、疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が100人(5歳50人)未満又は回答校が1校以下のため、統計数値を公表しない取扱いであることを示す。

7 「せき柱の状態」、「胸郭の状態」、「四肢の状態」については、令和4年度までは「せき柱・胸郭・四肢の状態」をまとめて調査している。

## 2 主な疾病・異常等の推移

疾病・異常等のうち、主なものについては次表のとおりである。

表2 主な疾病・異常等の推移

(単位:%)

区 分		むし歯(う歯)	裸眼視力1.0未満の者	蛋白検出の者	耳疾患者	鼻・副鼻腔疾患	ぜん息	心電図異常	口腔咽喉頭疾患・異常	アトピー性皮膚炎
幼稚園	令和元年	43.1	X	0.5	5.6	4.5	1.4	…	1.0	1.9
	2	33.4	X	0.1	3.0	1.0	1.0	…	0.1	0.8
	3	37.3	X	0.8	0.2	2.8	0.7	…	-	1.1
	4	35.7	25.2	0.0	1.1	1.6	0.9	…	-	0.9
	5	<b>32.1</b>	<b>X</b>	<b>0.1</b>	<b>0.9</b>	<b>3.3</b>	<b>0.3</b>	…	-	<b>0.1</b>
小学校	令和元年	54.5	31.5	0.8	8.0	15.3	3.2	1.8	1.5	2.0
	2	54.7	30.8	0.6	7.9	19.6	3.5	1.5	1.3	1.6
	3	48.7	34.0	0.5	8.8	16.6	1.8	2.5	1.1	1.1
	4	50.3	37.1	0.7	7.3	15.4	2.3	2.7	1.2	2.0
	5	<b>46.0</b>	<b>34.7</b>	<b>0.5</b>	<b>8.5</b>	<b>19.8</b>	<b>2.4</b>	<b>2.1</b>	<b>1.9</b>	<b>1.8</b>
中学校	令和元年	45.8	58.6	5.7	5.1	14.0	0.8	2.0	0.5	1.2
	2	38.5	57.8	2.4	7.4	17.5	0.9	3.1	0.7	1.1
	3	43.1	57.6	2.2	5.8	14.7	1.1	1.9	0.5	1.2
	4	44.4	57.2	2.0	5.5	14.3	1.9	2.7	0.8	1.7
	5	<b>42.8</b>	<b>58.4</b>	<b>1.9</b>	<b>5.9</b>	<b>16.3</b>	<b>1.4</b>	<b>3.3</b>	<b>2.5</b>	<b>2.1</b>
高等学校	令和元年	55.1	68.8	3.3	2.6	12.5	2.1	3.2	0.2	2.3
	2	55.2	71.3	4.2	5.3	14.4	1.9	3.8	0.4	2.4
	3	54.5	68.9	4.0	1.4	14.0	2.7	3.0	0.2	2.8
	4	51.8	71.0	3.0	2.7	15.6	1.7	2.9	0.1	2.9
	5	<b>48.7</b>	<b>X</b>	<b>4.7</b>	<b>1.2</b>	<b>9.6</b>	<b>1.2</b>	<b>4.2</b>	<b>0.2</b>	<b>2.0</b>

(注) ① 数値は、小数点以下第2位を四捨五入している。(以下Ⅱ2の各表において同じ。)

② 「X」は、疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が100人(5歳50人)未満又は回答校が1校以下のため統計数値を公表しない取扱いであることを示す。

③ 心電図異常については、6歳、12歳、15歳のみ調査対象としている。

(1) むし歯(う歯)

① 令和5年度の「むし歯(う歯)」の者の割合(処置完了者を含む。)は、幼稚園32.1%、小学校46%、中学校42.8%、高等学校48.7%と、全ての学校区分で前年度より減少している。

「処置完了者」の割合については、全ての学校区分で前年度より減少している。

また、「未処置歯のある者」の割合については、幼稚園では前年度より増加している。

なお、「むし歯(う歯)」の者の割合を全国と比べると、全ての学校区分で全国平均を上回っている。

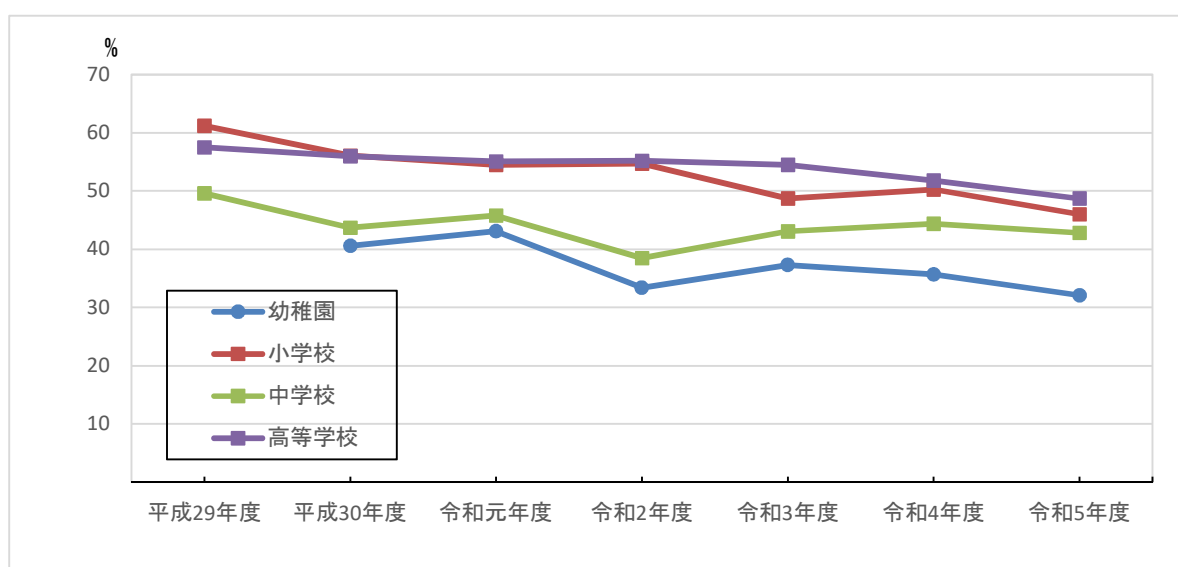
表3 むし歯(う歯)の者の割合の推移

(単位:%)

区分		年度	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	前年度との差	全国(令和5)	全国との差
							A	B		B-A	C	B-C
幼稚園	計		X	40.6	43.1	33.4	37.3	35.7	32.1	△ 3.6	22.6	9.5
	処置完了者		X	18.2	18.6	12.5	18.8	16.6	10.3	△ 6.3	8.7	1.6
	未処置歯のある者		X	22.4	24.5	20.9	18.6	19.1	21.8	2.7	13.8	8.0
小学校	計		61.2	56.1	54.5	54.7	48.7	50.3	46.0	△ 4.3	34.8	11.2
	処置完了者		27.8	25.8	24.3	27.5	24.6	24.8	22.2	△ 2.6	17.5	4.7
	未処置歯のある者		33.4	30.3	30.2	27.2	24.2	25.5	23.7	△ 1.8	17.3	6.4
中学校	計		49.6	43.7	45.8	38.5	43.1	44.4	42.8	△ 1.6	28.0	14.8
	処置完了者		25.5	24.1	24.4	19.2	27.1	25.2	24.8	△ 0.4	16.9	7.9
	未処置歯のある者		24.1	19.5	21.4	19.3	16.1	19.1	18.0	△ 1.1	11.1	6.9
高等学校	計		57.5	56.0	55.1	55.2	54.5	51.8	48.7	△ 3.1	36.4	12.3
	処置完了者		31.3	29.3	28.7	30.0	31.0	30.9	28.7	△ 2.2	22.5	6.2
	未処置歯のある者		26.1	26.7	26.4	25.2	23.5	20.8	19.9	△ 0.9	13.9	6.0

(注)「X」は、疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が100人(5歳50人)未満又は回答校が1校以下のため、統計数値を公表しない取扱いであることを示す。

図1 年度別・むし歯の者の推移  
(処置完了者+未処置者)



② 12歳の永久歯の1人当たり平均むし歯(う歯)等数(喪失歯及び処置歯数を含む)は、次表のとおりである。

表4 12歳の永久歯の1人当たり平均むし歯(う歯)等数 (単位:本)

区分		年度	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	前年度との差	全国(令和5)	全国との差
							A	B	B-A	C	B-C	
計	喪失歯数		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	(むし歯)	処置歯数	0.8	0.6	0.7	0.5	0.6	0.7	0.9	0.2	0.4	0.5
		未処置歯数	0.5	0.4	0.4	0.3	0.3	0.4	0.5	0.1	0.2	0.3
		計	1.3	1.0	1.0	0.8	0.9	1.1	1.4	0.3	0.6	0.8
	合計		1.4	1.0	1.1	0.8	1.0	1.1	1.4	0.3	0.6	0.8
男子	喪失歯数		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	(むし歯)	処置歯数	0.8	0.6	0.6	0.5	0.6	0.6	1.0	0.4	0.3	0.7
		未処置歯数	0.6	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3	0.4	0.1	0.2	0.2
		計	1.4	0.9	1.0	0.8	0.9	0.9	1.4	0.5	0.5	0.9
	合計		1.4	0.9	1.0	0.8	0.9	0.9	1.4	0.5	0.5	0.9
女子	喪失歯数		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	(むし歯)	処置歯数	0.8	0.7	0.7	0.6	0.7	0.8	0.7	△ 0.1	0.4	0.3
		未処置歯数	0.5	0.4	0.4	0.3	0.3	0.4	0.6	0.2	0.2	0.4
		計	1.3	1.1	1.1	0.8	1.0	1.2	1.3	0.1	0.6	0.7
	合計		1.3	1.1	1.1	0.9	1.0	1.2	1.4	0.2	0.6	0.8

(2) 裸眼視力

「裸眼視力1.0未満」の者の割合及び内訳は次表のとおりである。

「裸眼視力1.0未満」の者の割合を前年度と比べると、12歳、13歳は増加している。

表5 裸眼視力1.0未満の者の割合

(単位:%)

区分	年齢	令和4年度 A				令和5年度 B				前年度との差B-A				全国(令和5) C				全国との差B-C				
		計	1.0未満 0.7以上	0.7未満 0.3以上	0.3未満	計	1.0未満 0.7以上	0.7未満 0.3以上	0.3未満	計	1.0未満 0.7以上	0.7未満 0.3以上	0.3未満	計	1.0未満 0.7以上	0.7未満 0.3以上	0.3未満	計	1.0未満 0.7以上	0.7未満 0.3以上	0.3未満	
計	幼稚園	5	25.2	16.2	8.4	0.5	X	X	X	X	-	-	-	-	22.9	16.2	6.1	0.7	-	-	-	-
	小学校	計	37.1	13.2	13.0	10.9	34.7	11.6	12.3	10.7	△ 2.4	△ 1.6	△ 0.7	△ 0.2	37.8	12.4	14.3	11.1	△ 3.1	△ 0.8	△ 2.0	△ 0.4
		6	21.9	14.3	6.5	1.1	21.2	14.2	6.0	1.0	△ 0.7	△ 0.1	△ 0.5	△ 0.1	24.1	14.9	7.6	1.5	△ 2.9	△ 0.7	△ 1.6	△ 0.5
		7	24.0	13.9	7.4	2.7	22.2	12.3	7.7	2.3	△ 1.8	△ 1.6	0.3	△ 0.4	28.1	13.3	10.7	4.1	△ 5.9	△ 1.0	△ 3.0	△ 1.8
		8	34.9	14.8	13.2	6.9	31.1	12.3	11.7	7.2	△ 3.8	△ 2.5	△ 1.5	0.3	34.6	12.9	13.5	8.1	△ 3.5	△ 0.6	△ 1.8	△ 0.9
		9	41.6	13.8	15.4	12.5	38.9	10.7	16.2	12.0	△ 2.7	△ 3.1	0.8	△ 0.5	40.4	11.8	16.5	12.2	△ 1.5	△ 1.1	△ 0.3	△ 0.2
		10	46.8	10.9	17.2	18.7	42.7	11.0	15.1	16.7	△ 4.1	0.1	△ 2.1	△ 2.0	47.7	12.0	17.3	18.5	△ 5.0	△ 0.9	△ 2.2	△ 1.8
		11	51.9	11.9	17.6	22.4	49.7	9.7	16.4	23.6	△ 2.2	△ 2.2	△ 1.2	1.2	50.5	10.0	19.6	21.0	△ 0.8	△ 0.3	△ 3.2	2.6
	中学校	計	57.2	10.6	14.5	32.1	58.4	9.0	16.2	33.2	1.2	△ 1.6	1.7	1.1	60.9	13.1	19.5	28.3	△ 2.5	△ 4.1	△ 3.3	4.9
		12	52.3	9.3	13.8	29.3	55.5	11.1	16.4	28.0	3.2	1.8	2.6	△ 1.3	56.0	12.8	19.0	24.3	△ 0.5	△ 1.7	△ 2.6	3.6
		13	57.1	12.2	15.2	29.7	57.6	8.1	15.9	33.6	0.5	△ 4.1	0.7	3.9	61.0	13.3	19.6	28.1	△ 3.4	△ 5.2	△ 3.7	5.5
		14	62.1	10.3	14.6	37.2	62.1	7.8	16.3	37.9	0.0	△ 2.5	1.7	0.7	65.9	13.1	20.1	32.7	△ 3.7	△ 5.3	△ 3.8	5.2
	高等学校	計	71.0	5.6	19.6	45.8	X	X	X	X	-	-	-	-	67.8	11.2	17.2	39.5	-	-	-	-
		15	X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	-	-	68.8	10.6	17.2	41.1	-	-	-	-
16		X	X	X	X	X	X	X	X	-	-	-	-	67.0	10.6	17.9	38.4	-	-	-	-	
17		X	X	X	X	62.0	X	X	X	-	-	-	-	67.5	12.4	16.4	38.8	△ 5.5	-	-	-	

(注) 「X」は、疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が100人(5歳50人)未満又は回答校が1校以下のため、統計数値を公表しない取扱いであることを示す。

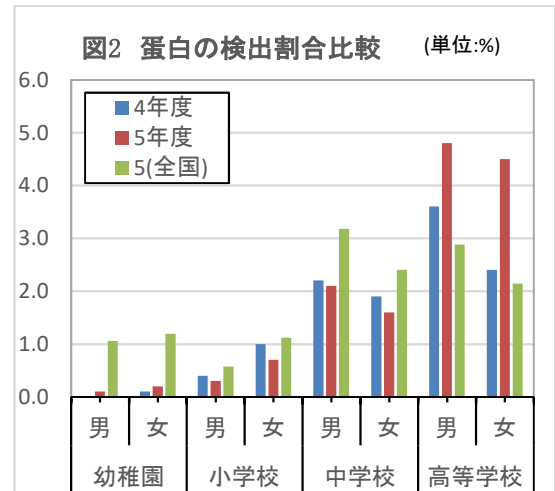


(3) 蛋白検出

「蛋白検出」の者の割合を前年度と比べると、男子は高等学校で、女子は幼稚園、高等学校で増加している。

(単位:%)

年度		元	2	3	4	5	5(全国)
計	幼稚園	0.5	0.1	0.8	0.0	0.1	1.1
	小学校	0.8	0.6	0.5	0.7	0.5	0.8
	中学校	5.7	2.4	2.2	2.0	1.9	2.8
	高等学校	3.3	4.2	4.0	3.0	4.7	2.5
男子	幼稚園	0.4	0.1	0.4	-	0.1	1.1
	小学校	0.7	0.5	0.3	0.4	0.3	0.6
	中学校	6.4	3.3	2.7	2.2	2.1	3.2
	高等学校	3.9	4.6	4.3	3.6	4.8	2.9
女子	幼稚園	0.6	0.1	1.1	0.1	0.2	1.2
	小学校	1.0	0.8	0.7	1.0	0.7	1.1
	中学校	5.0	1.5	1.7	1.9	1.6	2.4
	高等学校	2.7	3.7	3.6	2.4	4.5	2.1

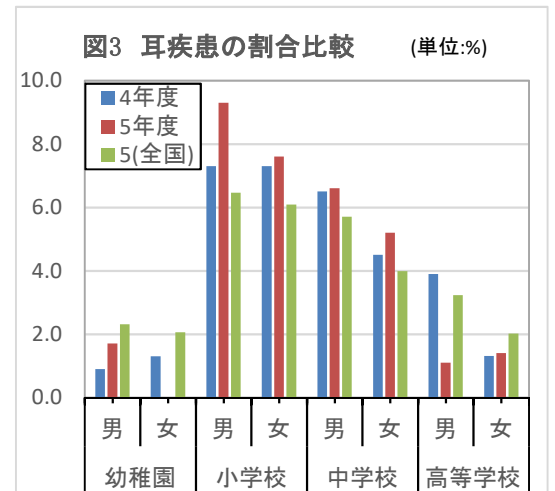


(4) 耳疾患

「耳疾患」の者の割合を前年度と比べると、男子は幼稚園、小学校、中学校で、女子は小学校、中学校、高等学校で増加している。

(単位:%)

年度		元	2	3	4	5	5(全国)
計	幼稚園	5.6	3.0	0.2	1.1	0.9	2.2
	小学校	8.0	7.9	8.8	7.3	8.5	6.3
	中学校	5.1	7.4	5.8	5.5	5.9	4.9
	高等学校	2.6	5.3	1.4	2.7	1.2	2.6
男子	幼稚園	5.1	3.0	0.4	0.9	1.7	2.3
	小学校	9.0	7.8	9.0	7.3	9.3	6.5
	中学校	5.8	8.4	6.8	6.5	6.6	5.7
	高等学校	3.7	8.3	1.0	3.9	1.1	3.2
女子	幼稚園	6.1	2.9	-	1.3	-	2.1
	小学校	6.9	7.9	8.5	7.3	7.6	6.1
	中学校	4.3	6.3	4.8	4.5	5.2	4.0
	高等学校	1.5	2.3	1.8	1.3	1.4	2.0

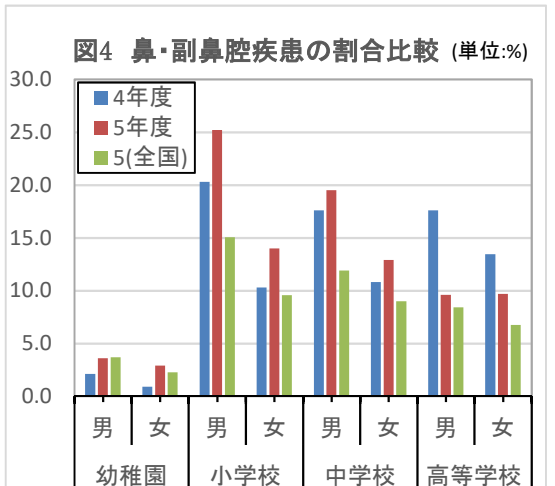


(5) 鼻・副鼻腔疾患

「鼻・副鼻腔疾患」の者の割合を前年度と比べると、男子・女子ともに幼稚園、小学校、中学校で増加している。

(単位:%)

年度		元	2	3	4	5	5(全国)
計	幼稚園	4.5	1.0	2.8	1.6	3.3	3.0
	小学校	15.3	19.6	16.6	15.4	19.8	12.4
	中学校	14.0	17.5	14.7	14.3	16.3	10.5
	高等学校	12.5	14.4	14.0	15.6	9.6	7.6
男子	幼稚園	2.3	2.0	3.4	2.1	3.6	3.7
	小学校	19.9	23.9	21.0	20.3	25.2	15.1
	中学校	16.6	20.8	17.6	17.6	19.5	11.9
	高等学校	14.3	20.8	15.1	17.6	9.6	8.4
女子	幼稚園	6.7	-	2.2	0.9	2.9	2.3
	小学校	10.4	15.1	12.0	10.3	14.0	9.6
	中学校	11.3	13.9	11.5	10.8	12.9	9.0
	高等学校	10.6	7.9	12.8	13.4	9.7	6.7



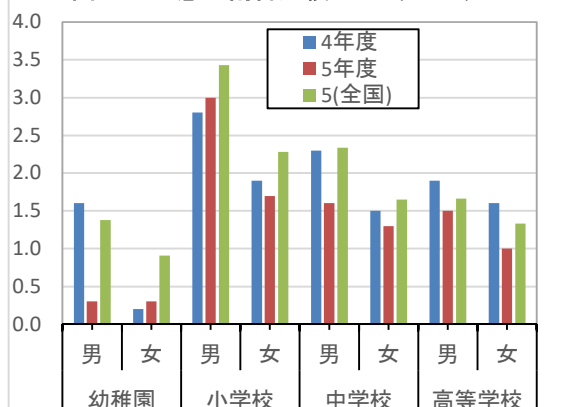
(6) ぜん息

「ぜん息」の者の割合を前年度と比べると、男子は小学校で、女子は幼稚園で増加している。

(単位:%)

年度		元	2	3	4	5	5(全国)
計	幼稚園	1.4	1.0	0.7	0.9	0.3	1.2
	小学校	3.2	3.5	1.8	2.3	2.4	2.9
	中学校	0.8	0.9	1.1	1.9	1.4	2.0
	高等学校	2.1	1.9	2.7	1.7	1.2	1.5
男子	幼稚園	1.5	1.4	-	1.6	0.3	1.4
	小学校	3.7	4.2	2.0	2.8	3.0	3.4
	中学校	0.9	1.2	1.4	2.3	1.6	2.3
	高等学校	2.5	1.8	3.4	1.9	1.5	1.7
女子	幼稚園	1.4	0.6	1.5	0.2	0.3	0.9
	小学校	2.7	2.7	1.5	1.9	1.7	2.3
	中学校	0.7	0.7	0.8	1.5	1.3	1.7
	高等学校	1.8	1.9	2.0	1.6	1.0	1.3

図5 ぜん息の割合比較 (単位:%)



(7) 心電図異常

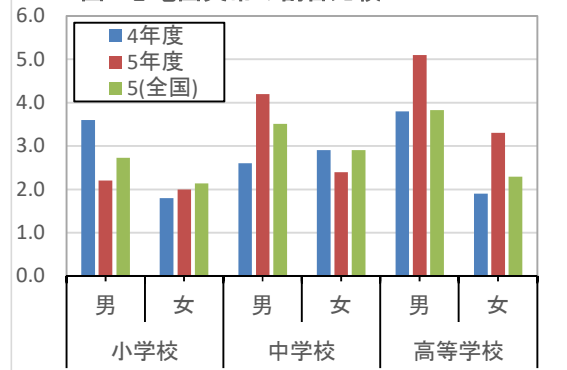
「心電図異常」の者の割合を前年度と比べると、男子は中学校、高等学校で、女子は小学校、高等学校で増加している。

(単位:%)

年度		元	2	3	4	5	5(全国)
計	小学校	1.8	1.5	2.5	2.7	2.1	2.4
	中学校	2.0	3.1	1.9	2.7	3.3	3.2
	高等学校	3.2	3.8	3.0	2.9	4.2	3.1
男子	小学校	1.8	1.7	2.6	3.6	2.2	2.7
	中学校	2.4	3.5	1.9	2.6	4.2	3.5
	高等学校	3.9	4.6	3.9	3.8	5.1	3.8
女子	小学校	1.7	1.4	2.4	1.8	2.0	2.1
	中学校	1.6	2.6	1.9	2.9	2.4	2.9
	高等学校	2.4	2.9	2.1	1.9	3.3	2.3

(注)心電図異常については、6歳、12歳、15歳のみ調査対象としている。

図6 心電図異常の割合比較 (単位:%)



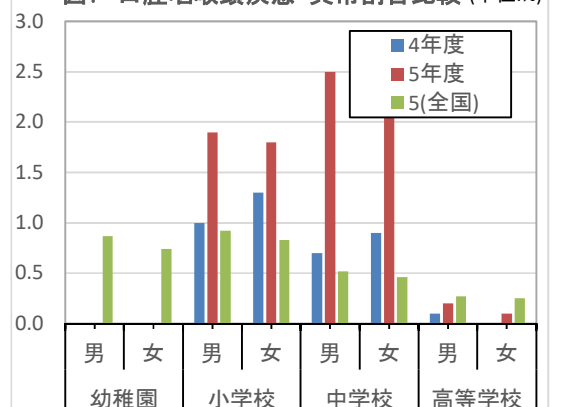
(8) 口腔咽喉頭疾患・異常

「口腔咽喉頭疾患・異常」の者の割合を前年度と比べると、男子は小学校、中学校、高等学校で、女子は小学校、中学校で増加している。

(単位:%)

年度		元	2	3	4	5	5(全国)
計	幼稚園	1.0	0.1	-	-	-	0.8
	小学校	1.5	1.3	1.1	1.2	1.9	0.9
	中学校	0.5	0.7	0.5	0.8	2.5	0.5
	高等学校	0.2	0.4	0.2	0.1	0.2	0.3
男子	幼稚園	1.0	-	-	-	-	0.9
	小学校	2.1	1.4	1.0	1.0	1.9	0.9
	中学校	0.6	0.9	0.5	0.7	2.5	0.5
	高等学校	0.2	0.7	0.2	0.1	0.2	0.3
女子	幼稚園	1.0	0.2	-	-	-	0.7
	小学校	0.9	1.2	1.1	1.3	1.8	0.8
	中学校	0.4	0.5	0.5	0.9	2.5	0.5
	高等学校	0.2	0.2	0.3	-	0.1	0.3

図7 口腔咽喉頭疾患・異常割合比較 (単位:%)



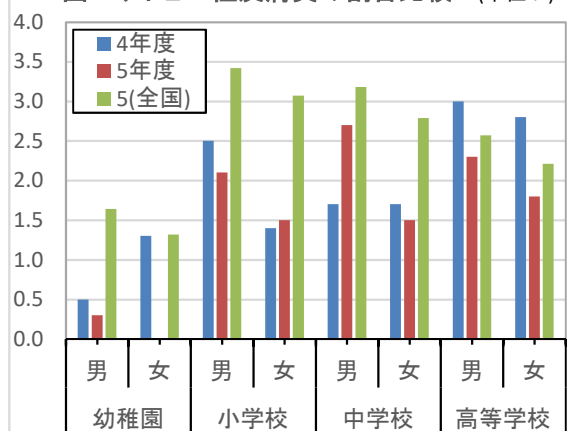
(9) アトピー性皮膚炎

「アトピー性皮膚炎」の者の割合を前年度と比べると、男子は中学校で、女子は小学校で増加している。

(単位:%)

年度		元	2	3	4	5	5(全国)
計	幼稚園	1.9	0.8	1.1	0.9	0.1	1.5
	小学校	2.0	1.6	1.1	2.0	1.8	3.3
	中学校	1.2	1.1	1.2	1.7	2.1	3.0
	高等学校	2.3	2.4	2.8	2.9	2.0	2.4
男子	幼稚園	1.7	0.8	0.5	0.5	0.3	1.6
	小学校	1.8	1.6	1.1	2.5	2.1	3.4
	中学校	1.1	1.1	1.3	1.7	2.7	3.2
	高等学校	2.4	2.4	3.0	3.0	2.3	2.6
女子	幼稚園	2.1	0.8	1.8	1.3	-	1.3
	小学校	2.1	1.7	1.1	1.4	1.5	3.1
	中学校	1.3	1.0	1.0	1.7	1.5	2.8
	高等学校	2.1	2.3	2.6	2.8	1.8	2.2

図8 アトピー性皮膚炎の割合比較 (単位:%)



### Ⅲ 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

#### 1 肥満傾向児の出現率

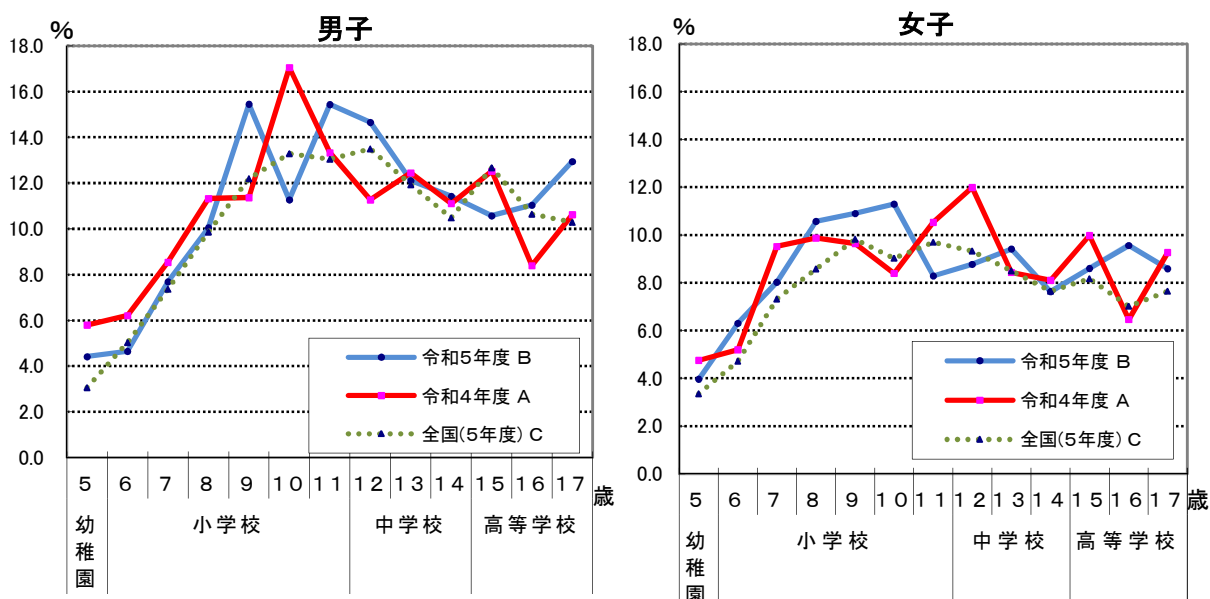
前年度と比べると、男子では6つの年齢階層で増加し、7つの年齢階層で減少している。  
 女子でも6つの年齢階層で増加し、7つの年齢階層で減少している。  
 全国と比べると、男子では10の年齢階層で上回っており、3つの年齢階層で下回っている。  
 女子でも10の年齢階層で上回っており、3つの年齢階層で下回っている。

表1 肥満傾向児の割合 (単位:%)

区分	年齢	令和4年度 A	令和5年度 B	前年度差 B-A	全国(5年度) C	全国との差 B-C	
男 子	幼稚園	5	5.80	4.42	△ 1.38	3.06	1.36
		6	6.21	4.65	△ 1.56	5.03	△ 0.38
	小学校	7	8.55	7.69	△ 0.86	7.36	0.33
		8	11.33	10.05	△ 1.28	9.87	0.18
		9	11.37	15.46	4.09	12.20	3.26
		10	17.06	11.28	△ 5.78	13.30	△ 2.02
		11	13.34	15.45	2.11	13.05	2.40
	中学校	12	11.27	14.67	3.40	13.50	1.17
		13	12.45	12.11	△ 0.34	11.93	0.18
		14	11.11	11.43	0.32	10.48	0.95
	高等学校	15	12.52	10.57	△ 1.95	12.68	△ 2.11
16		8.40	11.05	2.65	10.65	0.40	
17		10.63	12.95	2.32	10.29	2.66	
女 子	幼稚園	5	4.75	3.96	△ 0.79	3.35	0.61
		6	5.20	6.30	1.10	4.71	1.59
	小学校	7	9.52	8.02	△ 1.50	7.31	0.71
		8	9.88	10.57	0.69	8.58	1.99
		9	9.64	10.90	1.26	9.82	1.08
		10	8.39	11.30	2.91	9.02	2.28
		11	10.54	8.29	△ 2.25	9.70	△ 1.41
	中学校	12	11.99	8.78	△ 3.21	9.33	△ 0.55
		13	8.43	9.42	0.99	8.50	0.92
		14	8.11	7.63	△ 0.48	7.64	△ 0.01
	高等学校	15	9.98	8.61	△ 1.37	8.17	0.44
16		6.46	9.56	3.10	7.02	2.54	
17		9.27	8.59	△ 0.68	7.64	0.95	

(注)「肥満傾向児」とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。  
 肥満度=(実測体重-身長別標準体重)/身長別標準体重×100(%)

図1 年齢別肥満傾向児の出現率の推移



## 2 痩身傾向児の出現率

前年度と比べると、男子では5つの年齢階層で増加し、7つの年齢階層で減少している。

女子では8つの年齢階層で増加し、5つの年齢階層で減少している。

全国と比べると、男子では2つの年齢階層で上回っており、11の年齢階層で下回っている。

女子では5つの年齢階層で上回っており、8つの年齢階層で下回っている。

表2 痩身傾向児の割合

(単位:%)

区分		年齢	令和4年度 A	令和5年度 B	前年度差 B-A	全国(5年度) C	全国との差 B-C
男子	幼稚園	5	0.08	0.35	0.27	0.30	0.05
		6	-	0.16	-	0.39	△ 0.23
	小学校	7	0.19	0.39	0.20	0.62	△ 0.23
		8	1.01	0.79	△ 0.22	0.92	△ 0.13
		9	2.01	1.09	△ 0.92	1.67	△ 0.58
		10	3.49	2.93	△ 0.56	2.24	0.69
		11	3.73	1.68	△ 2.05	2.99	△ 1.31
	中学校	12	1.14	1.22	0.08	3.43	△ 2.21
		13	3.78	1.48	△ 2.30	2.64	△ 1.16
		14	2.26	2.52	0.26	2.81	△ 0.29
	高等学校	15	2.52	3.54	1.02	4.21	△ 0.67
		16	3.86	3.14	△ 0.72	3.40	△ 0.26
		17	3.66	3.06	△ 0.60	3.46	△ 0.40
	女子	幼稚園	5	0.11	0.27	0.16	0.33
6			0.40	1.25	0.85	0.47	0.78
小学校		7	0.18	0.11	△ 0.07	0.57	△ 0.46
		8	1.87	0.83	△ 1.04	1.16	△ 0.33
		9	2.84	1.30	△ 1.54	2.12	△ 0.82
		10	2.31	4.60	2.29	2.80	1.80
		11	2.11	2.38	0.27	2.85	△ 0.47
中学校		12	3.22	5.81	2.59	4.25	1.56
		13	2.51	4.01	1.50	3.36	0.65
		14	2.96	4.51	1.55	2.97	1.54
高等学校		15	3.29	3.00	△ 0.29	3.34	△ 0.34
		16	2.76	1.82	△ 0.94	2.49	△ 0.67
		17	1.56	1.75	0.19	2.01	△ 0.26

(注)「痩身傾向児」とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。

図2 年齢別痩身傾向児の出現率の推移

